

ひょうごの遺跡

平成11年3月31日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
〒652 TEL 078-531-7011
-0032 FAX 078-531-7014

特集 平成10年度の発掘調査

県教育委員会では、平成10年度に168件の発掘調査を行いました。今号では、この中で主要な遺跡について紹介します。このうち28件は震災復興事業に伴う発掘調査です。この調査には、平成7年度から昨年度まで3箇年にわたり、全国各地の自治体から埋蔵文化財の専門職員を派遣していただいておりますが、今年度からは本県と市町の職員だけで対応しています。

新発見の古代寺院

こいぬまる 小犬丸遺跡（龍野市揖西町）

小犬丸遺跡では、これまで古代の山陽道や、その駅に比定される「^{ふせのうまや}布勢駅家」などが調査されてきました。兵庫県教育委員会では、平成9年度から、山陽自動車道新宮インターチェンジ建設事業に先立って発掘調査を行っており、その結果、これまでに知られていなかった古代寺院跡の一部を発見しました。



上空から見た調査地点（平成10年度）と出土した鉄製風鐸（右上）

伽藍の検出

平成9年度の調査では、寺院の周囲を囲む築地(塀)跡が見つかり、寺域の存在と寺域の南辺と西辺が判明しました。この築地跡の両側には溝が掘られており、その中から築地に葺かれていた瓦が出土しています。

平成10年度、さらに北側の山裾にあたる部分を調査したところ、前年度調査した築地跡は、まっすぐ北に向かって伸びて山にぶつかって終わることがわかりました。その延長は南北方向に約75mを測ります。また、築地に囲まれた内側から瓦葺きの建物跡が1棟見つかりました。

瓦葺きの建物は、一辺約10m四方の土盛りの基壇上に建っていたようです。この基壇は、地山を削りだした上に盛土を行っており、約40cm弱が残っていました。基壇の周辺には、屋根に葺いた瓦が一面に堆積していました。

この瓦の堆積の中から、獣足を模した火舎や香炉の破片などの仏教的色彩を持った遺物が出土しており、これらとともに鉄製の風鐸が出土しました。

鉄製の風鐸

風鐸とは、仏堂の屋根の軒先や塔の相輪などにつけて建物を荘厳するものです。今の風鈴のようなもので、風を受けて風招が揺れ、内部の舌が鐘部に触れて、壮麗な音色を発します。



基壇の周辺に堆積した瓦



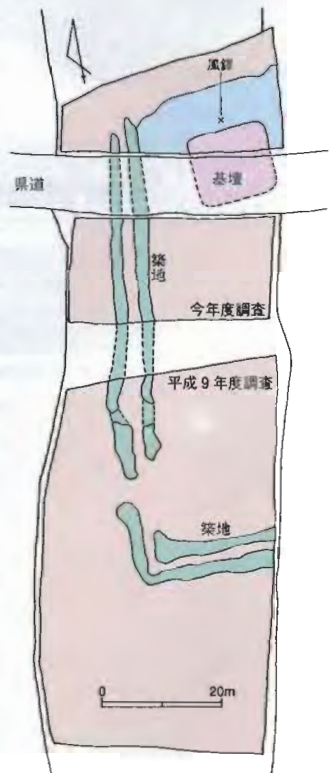
「布勢駅家」跡(手前)と調査地点(奥)

今回の調査で出土した風鐸は鉄製です。鐘部は高さが10cmほどの小型のものです。鐘部と共に鉄製の風招も2点出土しています。

風鐸は、各地の寺院跡で出土していますが、ほとんどが青銅製のものです。兵庫県下では、今まで伊丹廃寺(伊丹市)や但馬国分寺跡(日高町)で発見されていますが、やはり青銅製のもので、鉄製のものは少なく、県下では初めての出土例です。

またこの風鐸は小型であることから、仏堂の屋根の軒先ではなく、塔の相輪に取り付けられていた可能性が考えられます。そして、この基壇上の建物が塔であり、築地で囲まれた施設が寺院である可能性を裏付ける有力な資料でもあります。

今回発見された寺院跡は、「布勢駅家」と同時期に存在したことが出土遺物からわかりました。これまで古代山陽道は、現在の県道と同じ位置を通るものと推定されていましたが、今回の調査結果により、修正が必要となりました。



検出した寺院跡

古墳と縄文時代晩期の竪穴住居跡

たかさか 高坂古墳群・高坂西遺跡（氷上郡市島町）



高坂古墳群全景

高坂古墳群は竹田川西側の段丘上にあります。国道175号竹田バイパスの建設に先立つ調査の結果、古墳8基、木棺墓2基、石棺2基が見つかりました。

最大の1号墳は、6世紀後半の古墳で段丘先端部に造られています。墳丘は直径13mあり、埋葬施設は羨道の短い横穴式石室です。過去の盗掘のため、天井石はすべて抜き取られていましたが、鉄鏃、耳環、首飾り、須恵器杯、瓶、甗、子持ち器台などの多数の副葬品が見つかり、当地方の有力者の墓と考えられます。



1号墳

1号墳以外の古墳は、段丘北東端の斜面にあり、5世紀末の古墳です。大半の古墳は2基並列した埋葬施設を持っています。埋葬施設はその規模などから、子供は石棺、大人は木棺といったように使い分けているようです。2号墳の2基の埋葬施設は、棺底に3～4個の平石を水平に置き、その上に棺を設置する特殊な構造が見られます。7号墳の埋葬施設は小口板を深く埋め込む木棺と割竹形木棺の形態の異なる2基の埋葬施設が並列しています。



2号墳埋葬施設



7号墳埋葬施設

1号墳の墳丘盛土の下からは、縄文時代晩期の住居跡が見つかりました。住居跡は、直径約4mの円形で、壁溝と中央の炉跡両脇に支柱穴を2本もちます。古墳の石室造営時に約半分が壊されているものの、当時期の住居跡としては形態、構造が良くわかる希少なものです。

住居跡東側の土坑からは縄文時代晩期の土器片を多数確認したほか、落とし穴2基を確認しました。大きさは2基とも縦1.2m、横0.8m、深さ0.8mで、落とし穴の底には5つの杭跡が見つかりました。落とし穴に落ちた動物を殺傷するために逆杭を据えつけたものと思われます。



縄文時代晩期の竪穴住居跡

砂に埋もれた古墳時代の水田

加都遺跡では、平成9年度からの発掘調査によって、微高地の上から古墳時代中期を中心とした竪穴住居跡が100棟以上見つかり、但馬地方最大級の集落が存在したことがわかってきました。

今回、新水北B地区の調査では、微高地を取り巻く低湿地から、古墳時代中期から後期の水田跡が見つかりました。立地や出土遺物の時期から、微高地上の集落の人々が営んだ水田であると考えられます。

古墳時代中期に造られた水田は、湿地を流れる小川に沿って杭を打ち、幅1m程度の大きな畦を盛り



小川に沿って延びる畦畔

加都遺跡（新水北B地区）（朝来郡和田山町）



井堰を埋めつくした木片

上げています。また、調査区の北端には井堰を設けて水をせき止め、用水を供給していたようです。

水田は古墳時代後期の初めにおこった洪水によって埋もれてしまいましたが、洪水砂から顔を出した大畦を、建物に使われていた扉や板材・角材、割れた田下駄などを使って復旧し、砂に覆われた耕作土を根気よく耕し、水田を造り直しています。大畦畔だけでも総延長が160m以上に及び、大規模な土木工事が行われています。災害にめげず、共同で水田を復旧させる古代人の姿が目に見えそうです。

約1800年前の畠

若松町遺跡は、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたJR鷹取駅^{たかとり}の南東側にあります。震災前には、ここに遺跡の存在は知られていませんでした。ところが、ここに共同住宅が建設されることになり、遺跡があるかどうかを調べたところ、遺跡の存在が新たに明らかになりました。

発掘調査の結果、弥生時代の終わり頃（約1800年前）の畠の跡が見つかりました。幅約30cmの溝が何本も等間隔で平行しており、この溝と溝の間が野菜などの種をまく畠の畝にあたるものと考えられます。



上空から見た若松町遺跡

若松町遺跡（神戸市長田区）※神戸市への支援調査



畠

残念なことに、畠で作られていた作物については、明らかにできませんでした。

このような畠の跡が5箇所見つかりました。ただしこのうちの1つは、古墳時代（約1500年前）のもので、一部では、3つの畠が重複して見つかり、何回か畠をつくりかえていることがわかります。

なお、弥生時代までさかのぼる畠は、赤穂市の周^す世入相遺跡に次ぎ県下で2例目となりました。

愛らしいアザラシ形土製品

三条岡山遺跡は、芦屋市の西北部に位置し、年号を表記した最古の木簡が出土した^{さんじょうおかやま}三条九ノ坪遺跡に接しています。

調査では弥生時代後期から江戸時代の遺構が確認されました。古墳時代後期には大型の掘立柱建物が築かれています。近くの芦屋廃寺遺跡でも確認されていますが、この時期にある程度の力をもった人々が生活を営んでいたようです。



調査風景

(竪穴住居跡を調査しているところ。遠くに芦屋浜や震災で倒壊した阪神高速神戸線の復旧した高架部分が見えます。)

さんじょうおかやま
三条岡山遺跡 (芦屋市) ※芦屋市への支援調査



竪穴住居跡出土のアザラシ形土製品

今までの調査でも埴輪や子持ち勾玉などが出土していましたが、小型の古墳が三条岡山遺跡周辺に多く築かれていたようで、今回、木棺と思われる遺構を確認しました。また、塩作りをしたと思われる炉も調査しました。マダコ壺を転用した塩壺で消費地では珍しい調査例です。炉跡は2基以上あるようで塩の重要性が想像されます。住居跡からは愛らしい土製品(上の写真)が出土しました。アザラシのように見えますがいかがでしょうか。

ふないりえ 兵庫津の船入江

県教育委員会では、国道2号の共同溝工事に伴って兵庫津遺跡を横断するように調査を継続してきました。今回の調査地点は、七宮交差点を横断する場所にあたります。

調査では、絵図に描かれた船入江の石垣が国道の下に埋もれていることがわかりました。船入江は、市営入江住宅の敷地(旧入江小学校^{いりえ})を越えて国道の中央分離帯付近まで広がっていたのです。

石垣は、調査区の北側と西側で見つかりました。北側の石垣は、明治時代に修築された石垣が前面に



江戸時代の石垣(右)と明治時代の石垣(左)

ひょうご
兵庫津遺跡(神戸市兵庫区)



明治時代に修復された石垣

あり、その裏に江戸時代の石垣が残っていました。どちらの時代の石垣にも沈下を防ぐための胴木が石垣の下に据えられていました。江戸時代の石垣は、明治時代になって入江を再浚渫するまで機能していたものと考えられます。調査区の西側ではこのような古い石垣が見られませんでした。

この船入江は、幾度も修築を繰り返しながら、明治時代中頃まで兵庫津の重要な施設として機能していたと考えられます。

大型動物の狩猟戦略拠点

なぬかいち
七日市遺跡（氷上郡春日町）

七日市遺跡は旧石器時代から平安時代までの複合遺跡で、旧石器時代の遺跡としては、面積10万㎡以上の西日本最大規模です。約3万年前から2万5千年前にかけて、ナウマンゾウなど大型動物を追いかけて旧石器人が七日市遺跡にやってきました。今年度も大型動物の解体に使われたと考えられる局部磨製石斧や台形様石器などが出土しました。また遺跡周辺では産出しないサヌカイト（安山岩の一種）の剥片も出土しています。なお平成5年度から続けられてきた調査も今年度を最後に終了しました。



全 景

平安時代～鎌倉時代のムラ

こいぬまる なかたに
小犬丸・中谷遺跡（龍野市揖西町）

小犬丸・中谷遺跡は、古代山陽道に臨む山の斜面の、小さな平坦地に営まれた平安時代～鎌倉時代の村で、掘立柱建物跡が多数見つかりました。村の北側では、貯蔵用の小さな石室も発見されました。

また、この村ができる前の7世紀ごろ、直径6mほどの小型の古墳1基がつくられていたこともわかりました。古墳の主体部は横穴式石室です。

小犬丸・中谷遺跡に隣接して、古代の山陽道の駅に比定される小犬丸遺跡があり、この遺跡との関係が注目されます。



掘立柱建物跡群

古墳時代の集落

すみよしやま
住吉宮町遺跡（神戸市東灘区）

住吉宮町遺跡は六甲山南麓の住吉川と石屋川によって形成された扇状地に立地します。今回の調査では、奈良時代後半から平安時代前半の建物跡2棟と古墳時代前期の竪穴住居跡9棟が見つかりました。住居跡の平面形は方形で、一辺3～5mです。主柱穴は2本のものと4本のものがあります。比較的小さい住居跡ばかりなのが特徴です。

また、地震による地滑りの痕跡や噴砂痕（液状化現象の跡）が見つっています。古墳時代の住居は洪水により埋没しています。自然災害の恐ろしさを実感する調査でもありました。



竪穴住居跡

中世の集落

ひめなかつのつば
東中道ノ坪遺跡（多紀郡丹南町）

東中道ノ坪遺跡は篠山川により形成された沖積地上に立地しています。今回は、12世紀末～13世紀初頭の集落の縁辺部を発掘調査しました。調査の結果、掘立柱建物や井戸などが見つかりました。井戸の周辺には柱穴や溝が存在しており、これらは井戸の覆屋と雨落ちの溝になると考えられます。また、井戸底の湧水口を曲物で囲った井戸も見つかりました。遺物では丹波型の瓦器や丹波焼などが出土しました。これまで丹波型の瓦器がまとまって出土する遺跡の数は少なく、今回見つかった瓦器は中世集落間の流通を考える上で貴重な資料となります。



掘立柱建物跡

姫路城外の調査

豆腐町遺跡（その1）（姫路市豆腐町）

豆腐町遺跡は、現在のJR姫路駅の構内にありますが、江戸時代には姫路城の外堀のすぐ南側の位置にあたります。

調査区の東側では弥生時代、奈良時代～平安時代前期の溝が、調査区の西側では鎌倉時代初めの掘立柱建物や井戸などが見つかりました。このことから、周辺には、弥生時代～中世の集落が存在する可能性が高いと考えられます。また調査地は、江戸時代には水田であった事が判明しました。このことは、江戸時代の絵図の描写と一致しており、絵図の信憑性を裏付ける結果となりました。



全 景

土塁を持つ居館跡

殿町構居跡（佐用郡佐用町）

殿町構居跡は、利神城跡から南に伸びる低い丘陵が佐用川に面する場所に位置し、空堀と土塁によって区画が現存します。空堀と土塁は16世紀の池田氏治政期以前に造られたものです。

土塁を取り除くと、15世紀から16世紀の柱穴などが見つかりました。この場所は、14世紀に「別所構」が築かれ、16世紀には宇喜多秀家の家老が居宅を構えたとされています。今回の調査成果はそれらの文献資料の記載を裏付けるものかもしれません。



土塁の断面

弥生時代の貯蔵穴

※神戸市への支援調査
御蔵遺跡（神戸市長田区）

御蔵遺跡は、今までに10数回の調査が行われ、古墳時代や奈良時代の遺跡であることが明らかとなっていました。今回、さらに古く弥生時代（約1800前年前）までさかのぼる遺跡であることがわかりました。

今回の調査の結果、弥生時代中期の水田と水田に水を流すための用水路・貯蔵穴などが見つかりました。貯蔵穴は、地面から井戸のようにほぼ垂直に深く掘られた穴で、直径が約2m、深さは約1.5mあります。この穴の中から、木製の梯子が立てかけられた状態で見つかりました。



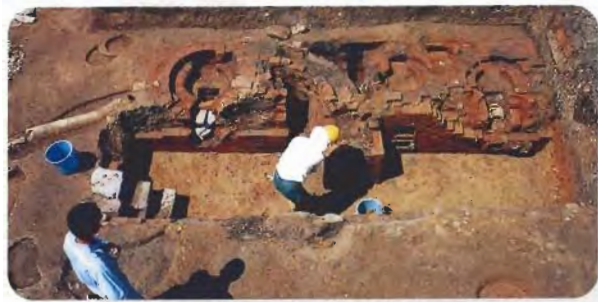
貯蔵穴

酒蔵跡の調査

※伊丹市への支援調査
有岡城跡・伊丹郷町（伊丹市）

下の写真は、明治時代に使われていた煉瓦造りのカマドの跡です。丸く煉瓦が並んでいる部分に大きな釜をのせて湯を沸かして米を蒸していました。前の穴は焚口と灰の掻き出し口です。手前に張り出している部分は煙突の基部です。

今回の調査地点は、江戸時代から明治時代にかけての酒蔵跡です。蔵の内部からは米を蒸すカマドのほかに男柱と呼ばれるお酒を搾る設備、搾ったお酒を溜める垂壺を据えた跡などが見つかりました。これらの遺構を通して、時代とともに酒造りの設備が変化する様子がわかりました。



カマド跡

平成10年度の主な調査 (20～30は震災復興関連の調査)

No.	遺 跡 名	所 在 地	事 業 名	遺 跡 の 概 要
1	市辺遺跡	氷上郡氷上町市辺	北近畿豊岡自動車道建設	古墳時代～中世の集落
2	横田遺跡ほか	氷上郡氷上町横田他		古墳時代の集落・古墳
3	加都遺跡	朝来郡和田山町加都		古墳～平安時代の集落・道路
4	梅田古墳群	朝来郡和田山町久留引	播但連絡道路 (5期)	古墳時代の古墳
5	神出遺跡	神戸市西区神出町	国道175号 (神出バイパス) 建設	中世の集落・生産遺跡
6	西神N.T.No.62号遺跡	神戸市西区榎谷町	国道2号 (神戸西バイパス) 建設	弥生時代～中世の集落
7	楠・荒田町遺跡	神戸市中央区	神戸大学医学部大学院演習施設	中世・近世の集落
8	大谷遺跡	龍野市揖西町	山陽自動車道新宮インターチェンジ建設	弥生時代・中世の集落
9	御船遺跡	神戸市長田区	神戸市道高速道路2号線建設	中世の集落
10	伊丹郷町・有岡城跡	伊丹市伊丹	伊丹停車場線県単独舗装修繕	中世・近世の集落
11	沢 構	神崎郡市川町沢	長谷市川線道路改良	中世の居館・古代の流路
12	五反田遺跡	豊岡市祥雲寺	コウノトリの郷公園 (仮称) 整備	古墳時代の集落・流路
13	宮内遺跡	出石郡出石町宮内	町分久美浜線道路改良	古墳時代・中世の流路
14	三田城跡	三田市天神	有馬高等学校校舎建築	中世・近世の城郭
15	二郎宮ノ前遺跡	神戸市北区有野町	道場南口車両留置施設建設	古墳時代～中世の集落
16	溝之口遺跡	加古川市加古川町	JR山陽本線等連続立体交差	古墳時代の集落
17	勝雄遺跡	神戸市北区淡河町	淡河川局部改良	中世の集落
18	緑ヶ丘窯跡群	相生市那波	竜泉那波線住宅宅地関連公共整備	平安時代の窯
19	喜住西遺跡	津名郡五色町広石下	鳥飼浦洲本線道路改良	中世の集落
20	中山手遺跡	神戸市中央区	災害対策棟建設	中世の集落
21	伽耶院経塚	三木市志染町	東播磨情報公園都市	中世の経塚
22	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区	神戸共同溝	中世～近世の集落
23	北口町遺跡	西宮市北口町	西宮市北口駅市街地再開発	弥生時代～中世の集落
24	神楽遺跡	神戸市長田区神楽町	共同住宅建設	弥生時代～古墳時代の集落
25	郡家遺跡	神戸市東灘区御影中町	共同住宅建設	古墳時代・平安時代の集落
26	日輪寺遺跡	神戸市西区玉津町	共同住宅建設	弥生時代～中世の集落
27	大原遺跡	芦屋市大原町	店舗付個人住宅建設	古墳時代の水田
28	岩屋遺跡	伊丹市岩屋	都市計画街路事業	弥生時代の水田
29	明石城武家屋敷跡	明石市東仲ノ町	東仲ノ町地区市街地再開発	近世の武家屋敷
30	明石城外堀12地点	明石市東仲ノ町	店舗付個人住宅建設	近世の武家屋敷



編集後記

最近、歴史の教科書を書き換えるような発見が相次いでいます。私たちの仕事は、地域の皆様に元気と夢を提供できる仕事であると自負しています。今後も変わらぬ、ご理解とご協力をお願いします。